

## 中央大学特定課題研究費 一研究報告書一

所属	総合政策学部	身分	准教授
氏名	林 正		
NAME	Tadashi Hayashi		

## 1. 研究課題

（和文）海外子会社の立地と経営成果に関する実証研究

（英文）Empirical study on location and performance of foreign subsidiaries

## 2. 研究期間

2年間（2018年度～2019年度）

## 3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度）

（和文）

本研究の目的は、同業他社が集中することから生じる地域特化の経済性、そして異業種の企業が集中することから生じる都市化の経済性が、海外子会社の立地選択と経営成果に及ぼす影響を解明することである。そのために、日本の市区町村における外資系企業と欧州地域統計分類単位における日本企業の海外子会社の立地と撤退についてのデータベースの作成を進めた。作成したデータベースのうち、日本における外資系企業のデータを活用し、2010年から2018年までに設立された外資系企業490社とその立地選択の候補である市区町村のデータを用いて定量的な分析を行い、その研究成果を学会にて発表した。主な分析結果は以下のとおりである。

(1)日本における外資系企業は、地域の需要要因や人的資源要因、コスト要因や政策要因を考慮しても、地域特化の経済性、および都市化の経済性が高い地域に設立される傾向が見られる。(2)地域特化の経済性が高い地域ほど、海外子会社の立地を引き付けるものの、同時に海外子会社の撤退も頻繁に生じる。(3)都市化の経済性が高い地域は海外子会社の立地を促すものの、都市化の経済性は海外子会社の撤退と有意な関係を持たない。(4)都市化の経済性の指標として、ハーフィンダール指数のほかにエントロピー指数などの他の代表的な指標を用いても同様の傾向が見られる。これらのことは、多国籍企業の海外子会社の立地選択と撤退に影響する地域要因が異なることを示唆するものである。

（英文）

This study examines the effects of regional specialization economies and urbanization economies on the location choice and withdrawal of foreign subsidiaries. Examining the location choices and withdrawals of 490 foreign companies in Japan during 2010-2018, I find that regions with high specialization economies or high urbanization economies attract foreign firms. The results also show that in regions where specialization economies are high, there are frequent withdrawals of foreign companies. Furthermore, urbanization economies are not significantly related to the withdrawal of foreign subsidiaries. These results suggest that regional factors related to agglomeration economies may have different effects on the location choice and withdrawal of foreign subsidiaries.